

令和5年度事業報告書		事業所名	特別養護老人ホームしおかぜ	作成者	草野 裕子	作成日	R6.3.31
目標	本年テーマ	(計画)あきらめない介護・考える介護 ―チーム力の向上―					
		(評価) 人員が不足し、あきらめてしまった部分もあるが、少ないこそ考えて、多職種で連携できた部分もある					
基本処遇及び運営	■令和5年度処遇及び運営方針に対する評価						
	(計画)①ユニットケアについて理解を深める						
	②持ち上げない介護(ノーリフトケア)の推進						
	③丁寧な言動を意識する						
	(評価)						
	①ユニットリーダーの内部研修で、ユニットケアについて確認したり、オンライン研修を受講したりしたが、その他の取り組みは、ほぼ出来ていない。ユニット目標に掲げていた所は、個々に合わせた起床時間を取りくめていた。						
	②移乗リフト2台、デモ機を借りて各階で使ってみた。以前の導入時よりは、試用する意識が見えたが、導入には至らなかった。フレックスボードはほぼ浸透。マスターグライドは、徐々に使用できるようになっている。						
	③計画にあった掲示や自己点検の仕組み作りはできていない。各課の会議の中で、毎月伝えるにとどまった。						
	以前に比べると感情的な言動は減少しつつあるが、気持ち良く仕事に取りくめていない様子もある。						
	研修・セミナー	■職員研修計画と実績					
		研修名称	参加実績	研修名称	参加実績		
		ユニットリーダー研修	山本百音(講習のみ) 木下侑里	ユニットリーダー実地研修	宇恵裕子・佐々木和美		
		認知症介護基礎研修	宮崎さくら・米田圭甫	リスクマネジメント応用	宮邊久代・原田美香		
		認知症介護実践者研修	浅野由樹・杉野正幸	リスクマネジメント基礎編	宮崎さくら・原卯葵		
		看取り研修	浅野由樹・川崎萌子・神馬博美	職場リーダー・人材育成	川染ゆかり・桶野和美		
		認知症の食支援	有助夏実・川崎萌子・岡田有梨	不適切ケア・身体拘束	介護・看護等9名		
		若手職員行動基本セミナー	喜田魁斗	喀痰吸引等指導者研修	岡野友美		
		ユニットリーダー研修リーダー研修、実地研修を受講した職員は、受講後に「衝撃だった」「自分たちのユニットもできることを始めたい」等の発言が多く聞かれ、取り組みに繋がっていることもある。看取りの研修や認知症の職員の研修は、研修内容を委員会や会議での勉強会に取り入れ活用していた。不適切ケア・身体拘束の研修については、令和6年度の委員会内部研修で参考にしたい。研修に参加することで、業務から離れ、現状や自分自身と向き合う良い機会になっている。感じた事や実践したいと思ったことが、他職員と共有でき、継続的に実践できるようにしていきたい。					
会議・委員会・内部研修		■会議・委員会計画実績・効果					
		会議委員会名	実績・効果	会議委員会名	実績・効果		
		特養事業部会議	特養全体での情報共有、検討事項の協議及び決定を行った。	看取りケア委員	ドクターメイド導入に伴い、看取り指針の変更、内部研修を実施		
		介護主任会議	各階、全体の課題や協議事項を検討。意識、方向性の統一に繋がった	身体拘束・虐待防止委員	虐待の芽チェックリストの実施、結果を受けての内部研修を実施		
		フロア会議	フロアの情報共有、課題や問題点を話し合えるようになってきた	介護技術向上・褥瘡予防委員	移乗リフト2機のデモ試用、除圧やベッドの適切な身体の位置を伝達		
		相談課会議	現状報告、新入居の検討を実施。業務をこなすのみになっていた	感染症対策委員	嘔吐処理キットとマニュアルの変更。感染発生時の対応訓練を実施		
		看護課会議	現状報告、委員会の報告が主。意見を出し合い検討する場にした	認知症ケア委員	認知症の対応について意見交換、認知症基礎知識の内部研修実施		
		栄養会議	デイ下津井、城山、特養で開催。三者で行う良さを生かしていない	事故予防委員会	事故報告の中で、防げそうな条件を検討し、各階でも注意喚起していた		
		給食会議	厨房業者と改善点、問題点を検討。同じミスが続くこともあった。	全体行事委員	行事内容の検討を行うも、計画書の作成が遅れ気味だった。		

■災害訓練計画・実績				
防災・災害	訓練予定月	実施月	訓練目的	訓練評価
	9月	9月	夜間想定避難訓練	夜間に火災が発生した想定で実施。火災場所の特定はできるようになってきた。初期消火の指示だし、全館への放送は迷ったり、上手くいかない部分もあった。
	3月	3月	日中想定災害訓練	日中に地震発生後に火災発生想定。地震発生後の確認、報告はスムーズだった。火災発生時の初期消火、報告は順番が混乱する場面もあり。避難は比較的スムーズに行っていた。

■月別行事(下段)・内部研修報告(上段)	
月度	
4月	23日:備蓄食試用した防災訓練 内藤様100歳の祝い・外出・喫茶会・パン作り
5月	法令遵守
	外出・喫茶会・パン作り
6月	感染症委員会(食中毒)
	全体バイキング・喫茶会・パン作り
7月	介護技術向上・褥瘡予防委員会(シーティング・除圧)
	七夕会・昼食会・喫茶会・パン作り
8月	事故予防委員会(危険予知) 高齢者虐待・身体拘束予防委員会(不適切ケア・声掛け)
	喫茶会・パン作り
9月	認知症ケア委員会(認知症の対応事例検討)
	敬老会・喫茶会・パン作り
10月	感染症委員会(インフルエンザとコロナ感染症の対応)
	全体バス旅行・全体秋祭り・運動会・こども園交流会(運動会見学)・喫茶会・パン作り
11月	介護技術向上・褥瘡予防委員会(褥瘡のメカニズム)
	外出・喫茶会・パン作り
12月	事故予防委員会(事故事例の検証、報告書の書き方)
	全体もちつき・クリスマス会・喫茶会・パン作り
1月	高齢者虐待・身体拘束予防委員(食事介助の不適切事例)・感染シミュレーション訓練(初動準備)
	新年会・夕食会・喫茶会・パン作り
2月	認知症ケア委員会(認知症の基礎知識)
	全体大鍋会・喫茶会・パン作り
3月	看取り委員会(看取り期の食事・家族への寄り添い方)
	物故者供養・ひなまつり・喫茶会・パン作り

(総評)

・令和5年度は、ユニットケアについて職員と共に学び、考えることを一番の目標にしていたが、施設全体として学ぶ機会を設けることが出来なかった。しかし令和5年度のユニット目標を運営計画に沿って立案していたので、生活リズムを利用者様に合わせる意識を持つ職員は増えたり、たコロナ禍でストップしていたユニットリーダー研修に複数名参加できたことにより現状を振り返り、改善していきたいという思いを持つ職員は増えた。

・ノーリフトケアの推進については、フレックスボードやマスターガイド、スライドシートを使用する頻度は増加しているが、全員の統一した利用まではできていない。上手く利用できていない職員もあり、正しい使用方法、使用上の工夫なども検討する必要がある。

・丁寧な言動については、会議にて仕事に対する姿勢や考え方を伝え、理解できている職員もいるが、全職員には浸透できていない。以前に比べ、感情的になる職員は少なくなったように思うが、基本的な挨拶や話し方が適切にできていない職員も見受けられ、向上が必要。

この1年は職員の入退職が多くあり、相談、介護の部分は人員不足の期間が長かった。看護課が充足したことにより、介護との協力体制ができ、2名介助や入浴、見守りなど連携は図れるようになった。また少ない人員でどう業務を行うかをチーフやリーダー中心に考えられるようになり、チーム力の向上につながった部分はある。一方、1日の業務をこなすことに精一杯になってしまい、基本運営計画や数値目標に向けての取り組みはあまり行えなかった。令和5年度の職員の頑張り活かせるように、令和6年度は職員の定着と基本運営計画の確実な実施を目指していきたい。